

様式第4のハ (第4条、第5条関係)

屋外タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		(1)			
(2)	貯蔵する危険物の概要	引火点	℃	貯蔵温度	℃
	基礎、据付方法の概要	(3)			
タンクの構造、設備	形状	(4)		(5) 常圧・加圧( kPa)	
	寸法	(6)		容量	(7)
	材質、板厚	(8)			
	(9) 通気管	種別	数	内径又は作動圧	
				mm kPa	
	(10) 安全装置	種別	数	作動圧	
				kPa	
	液量表示装置	(11)	引火防止装置	(12) 有・無	
不活性気体の封入設備	(13)	タンク保温材の概要	(14)		
注入口の位置	(15)	注入口付近の接地電極	(16) 有・無		
(17) 防油堤	構造	容量	排水設備		
ポンプ設備の概要	(18)				
避雷設備	(19)				
配管	(20)				
消火設備	(21)	タンクの加熱設備	(22)		
工事請負者住所氏名	(23)			電話	

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

【記入要領】

項目	記入要領
記入方法	<p>ア 各欄の該当しない部分は、「／」、「－」、「なし」等を記入し、該当する部分がないことを明確にします。</p> <p>イ 製造所または一般取扱所の 20 号タンクの場合は、( 2 )から ( 17 ) を上記に従って記入し、そのほかの欄は斜線を記入します。</p>
(1) 事業の概要	<p>屋外タンク貯蔵所が設置されている事業所の事業内容・貯蔵目的等を記入します。</p> <p>(例)</p> <p>油槽所 (石油製品の貯蔵)</p> <p>化学薬品製造業 (薬品製造に伴う危険物の貯蔵)</p> <p>石油精製業 (石油精製に伴う危険物の貯蔵)</p>
(2) 危険物の概要	<p>タンクに貯蔵する危険物の引火点と貯蔵される危険物の最高温度を記入します。</p> <p>なお、常温で貯蔵する場合は、常温と記入します。</p>
(3) 基礎、据付方法の概要	<p>タンクを設置する位置の基礎施工方法とタンク据付方法を記入します。</p> <p>(例) 20mの P C 杭 6 本を打設し、その上部に 1.5mの鉄筋コンクリート造の基礎を設ける。タンクは、底板の縁をボルトにより基礎と固定させる。</p>
(4) 形状	<p>縦置円筒型・横置円筒型・角型・楕円型等を記入します。</p>
(5) 貯蔵圧力	<p>常圧・加圧は、タンクの貯蔵方法を○で囲み、加圧の場合は圧力を記入します。</p> <p>なお、常圧とは、正圧または負圧で 5 キロパスカルを超えないものをいいます。</p>
(6) 寸法	<p>寸法は、次の項目を記入します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縦置円筒型は、内径と側面板の底部からトップアングルまでの高さ</li> <li>・ 横置円筒型は、内径・胴長・鏡出・全長</li> <li>・ 角型は、縦・横・高さ</li> <li>・ 楕円型は、長さ・幅・高さ・最大幅等特徴的な部分の長さ</li> </ul>
(7) 容量	<p>危険物の規制に関する政令第 5 条第 2 項に規定するタンクの容量を記入します。</p> <p>なお、製造所または一般取扱所に設ける 20 号タンクで、危険物の規制に関する政令第 5 条第 3 項に規定する一定量を超えることがないタンクは、一定量を記入します。</p>
(8) 材質・板厚	<p>材質・板厚は、タンクのそれぞれの部分の材質と板厚を記入します。</p> <p>なお、材質は、JIS 記号を記入することでも可です。</p>
(9) 通気管	<p>タンクに設置される通気管の種類・設置数・内径を記入します。</p> <p>なお、大気弁付通気管の場合は、作動圧についても記入します。</p>
(10) 安全装置	<p>タンクが圧力タンクの場合は、安全装置の種類・設置数・作動圧を記入します。</p>
(11) 液量表示装置	<p>タンクに設置された液面計の型式等を記入します。</p>
(12) 引火防止装置	<p>有・無のいずれかを○で囲みます。</p>
(13) 不活性ガスの封入設備	<p>タンクに不活性ガスを封入する設備が設けられる場合は、その概要を記入します。</p> <p>(例) 専用配管を接合し、タンク内圧が○○Pa以下となれば窒素ガスの封入を行う。</p>
(14) タンク保温材	<p>タンクの外面に保温材がある場合に、保温材の種類と施工方法等を記入します。</p> <p>(例) ウレタンフォーム吹き付け</p>
(15) 注入口	<p>注入口の位置は、タンクに移動タンク貯蔵所等から受け入れる口がある場合に該当する注入口の設置場所と防油堤の内側か外側かを記入します。</p> <p>なお、製造所から配管により受け入れる場合等は、「なし」またはその旨記入します。</p> <p>(例) 防油堤内南西側</p> <p>○○棟 (製造所) から配管で注入</p>
(16) 接地電極	<p>注入口付近の接地電極は、有・無のいずれかを○で囲みます。</p>

(17) 防油堤	防油堤は、構造・容量・排水設備を記入します。 なお、排水設備は、防油堤内に集水ますを設け、防油堤外に排水弁を設ける等、概要を記入します。
(18) ポンプ設備	タンクに受け払いを行っているポンプの種類・最大吐出圧力・原動機の種類等・設置数・防爆構造の種別または記号を記入します。
(19) 避雷設備	JISA-4201で示される保護手法（回転球体法、保護角法、メッシュ法）と受雷部（突針、水平導体、架空地線、避雷導体）を記入します。 なお、他の建築物等に設置されている避雷設備の保護範囲内のため、製造所等に避雷設備を設置しない場合は、（ ）内に他の建築物等の名称と避雷設備の概要を記入します。
(20) 配管	製造所等で使用するすべての配管の材質・外面保護等を記入します。 材質・外面保護を記入する代わりにJIS規格番号や材料記号を記入することでもできます。
(21) 消火設備	製造所等に設置される消火設備について、危険物の規制に関する政令別表第5に規定する区分・設備名・設置数等を記入します。 （例）第4種消火設備（大型〇〇消火器20kg）1個、第5種消火設備（〇〇消火器10型）5個
(22) 加熱設備	設置された加熱設備の概要・加熱媒体・温度等がわかるよう記入します。 （例）ボイラーによる蒸気を配管により、20号タンクのジャケットに接続し、70度に加熱する。
(23) 工事請負者住所 氏名	工事請負者の住所・氏名・連絡先の電話番号を記入します。 法人は、主たる事業所の所在地・法人名・担当者名・連絡先の電話番号を記入します。